

公立大学法人和歌山県立医科大学 看護キャリア開発センター 令和元年度 活動報告

院内向け事業

院外向け事業

* 新人看護職員研修、継続教育研修および看護補助員研修の運営 *

看護部、教育研究委員会とともに、のべ 58 の研修を開催し、企画・運営に携わった。

また、保健看護学部との調整を行い、保健看護学部教員のべ 44 名が、附属病院看護職の研修にファシリテーターとして参加した。

	開催数	受講者数(のべ)
新人対象	30研修	1,542名
新人以外のスタッフ対象	24研修	497名
看護補助員対象	4研修	178名

新人看護職員研修 看護補助員研修



ファシリテーター

(保健看護学部教員)

* 保健看護学部教員との連携 *

臨床指導者の学習会(初級編)を保健看護学部教員が講師・ファシリテーターとなり 2 回シリーズで開催し、紀北分院からの参加も含め 13 名が受講した。学習会前後に調査した結果を踏まえ、令和 2 年度より看護部継続教育において臨床指導者育成を行なうこととした。



* 看護技術習得支援の実施 *

11 項目の技術に対して、のべ 377 名が受講した。看護技術の予習や復習の場を提供することで看護技術スキルを高められている。先輩看護師が同行し、指導を受けながら練習する部署も多かった。



看護技術習得支援

気管吸引	43
口腔・鼻腔吸引	35
筋肉注射	33
皮内注射	49
静脈血採血	13
尿道カテーテル	62
排便	21
胸骨圧迫(成人)	32
A E D	26
気道確保	35
気管内挿管介助	28
合計人数	377

* 人工呼吸器管理学習会 *

のべ 37 名が利用した。CE から説明を聞き実際に操作しながらわかりやすく学び、6 割の参加者が「現場で活かすことができる」と回答した。



* 呼吸管理シミュレーション学習会 *

4 部署 27 名が利用した。参加者から「部署で活かすことができた」「急変があったときに落ち着いて行動できた」など回答を得た。



※シナリオシミュレーション学習会に申し込んだにも関わらず、抽選となり参加できないということがあり、令和 2 年度から、申し込み方法を変更した。

臨床工学センターの協力のもと開催

* 後輩を育成する指導者に支援プログラムの提供 *

指導者と後輩看護師に同行し、実際の指導場面をリフレクションすることで、指導する側とされる側の認知のズレに気づけるよう 4 部署に介入した。次年度は対象部署を拡大して、教育指導者研修アドバンスを受講した指導者とともに継続していく。

* 看護研究サロンの企画と運営 *

研究テーマやデータ収集方法、倫理審査に関することなど、9 件の相談をおこなった。いずれも学会発表を目指し研究を継続している。

* 学生のキャリア支援 *

看護部と看護キャリア開発センターの調整により右記のとおり看護職を派遣した。

また、卒業生と学生の交流会にも 3 名を派遣し、その他、看護管理者や認定看護師などが講義を担当し、学生の学習を支援した。

授業	協力者
急性期看護論(小児看護)	1名
慢性期看護論Ⅲ	4名
リエゾン精神看護学(技術トレーニング演習)	5名

* 学生の学習環境を整える合同学習会 *

学部の実習委員会とともに調整し、学部教員と合同で学習会を実施。「コアコンピテンシー」をテーマに討議・共有した。



* ナーシング・スキル日本版と学研ナーシングサポートの管理と利用促進 *

ナーシング・スキル日本版は、病院と保健看護部でマニュアルとしても用いられている。学研ナーシングサポートでは、看護職員の自己研鑽を目標とした学習支援を行い、産育休中の職員も自宅での学習に用いることができるよう、コンテンツ紹介なども行った。



* 県内の主要医療機関の教育担当者ネットワーク体制を構築する *

医療圏ごとの施設間教育連携を実現するため、前年度に引き続き令和元年度は以下の取り組みを実施した。これらモデル的な取り組みにおける本学の介入を評価し、令和 2 年度には徐々に県内の他医療圏に拡大する。

< 海南医療センター >

令和元年度には海南医療センターの看護部教育担当者を対象とし、教育プログラムの構築を目指した。

クリニカルラダーシステムの変更に伴い、ラダーレベルに応じた人材育成を目的とした教育プログラムを検討・構築することができた。

< 橋本医療圏 >

5 施設(紀北分院・橋本市民病院・紀和病院・山本病院・紀の郷病院)を対象に、地域で活躍できる教育担当者の養成を目標と定め、方法について検討した。次年度から各施設の教育担当者によるミーティングを開催し、地域における自施設の役割、課題、そして連携に参加することで地域全体に目を向け、教育資源のシェアなどを通じて問題解決策について検討することを目指す。



* 特定行為研修に係る看護師の研修制度の運営 *

令和元年度には 3 期生の 11 名を輩出し、これまでに 3 期生計 17 名の修了者を輩出した。

修了者の区分の内訳は以下のとおり。

区分	1期生	2期生	3期生
呼吸器(気道確保に係るもの)関連			1
呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連	3		4
栄養及び水分管理にかかる薬剤投与関連	1	2	7
栄養に係るカテーテル管理(CVC)		2	5
栄養に係るカテーテル管理(PICC)		2	4

現在 4 期生(受講者 11 名)の区分別科目研修中であり、年度内に修了予定である。

令和 2 年度は 5 期生 10 名が共通科目を受講中である。

* フォーラムの開催 *

本学内および和歌山県内の住民や医療職対象に、施設間連携における特定行為研修生・修了生の教育システムの構築をテーマとし、特定行為研修フォーラムを開催した。

令和元年度は和歌山市、かつらぎ町、田辺市で計 3 回開催し、のべ 42 名が参加した。

3 期生修了式



* 受け入れ事業の拡大 *

県内の医療機関で働く看護職員がキャリアに応じて学ぶ内容を選択できる研修機会を提供するため、受入れ研修を拡大して地域に広報した。

専門・認定看護師各位にご協力いただき、4 分野 7 コースの研修を開催し、合計 19 名の受講者が参加した。どのコースも実践に活かすことを目的に企画しており、受講者個別の目的・目標に沿って介入されていた。

コース名	企画担当
感染管理ベーシック	感染管理認定看護師
感染管理アドバンス	感染管理認定看護師
周産期メンタルヘルス	新生児集中ケア認定看護師、小児看護専門看護師、精神看護専門看護師、精神科医師、県健康局母子保健班
ナースのメンタルヘルス	精神看護専門看護師、精神科医師
手術看護ベーシック	手術看護認定看護師
手術看護アドバンス	手術看護認定看護師
教育担当者コース(倫理の教え方)	看護キャリア開発センター

* 潜在看護師等の支援プログラム *

令和元年度は 2 日間コースのプログラムを 1 回実施した。

1 日目の講義に加え、2 日目は実践の感覚を取り戻すために、技術演習やロールプレイなどを充実させた。両日でのべ 18 名(うち院内育休看護師 4 名)が参加し、うち 1 名の復職につなげることができた。

